

# 放射線科

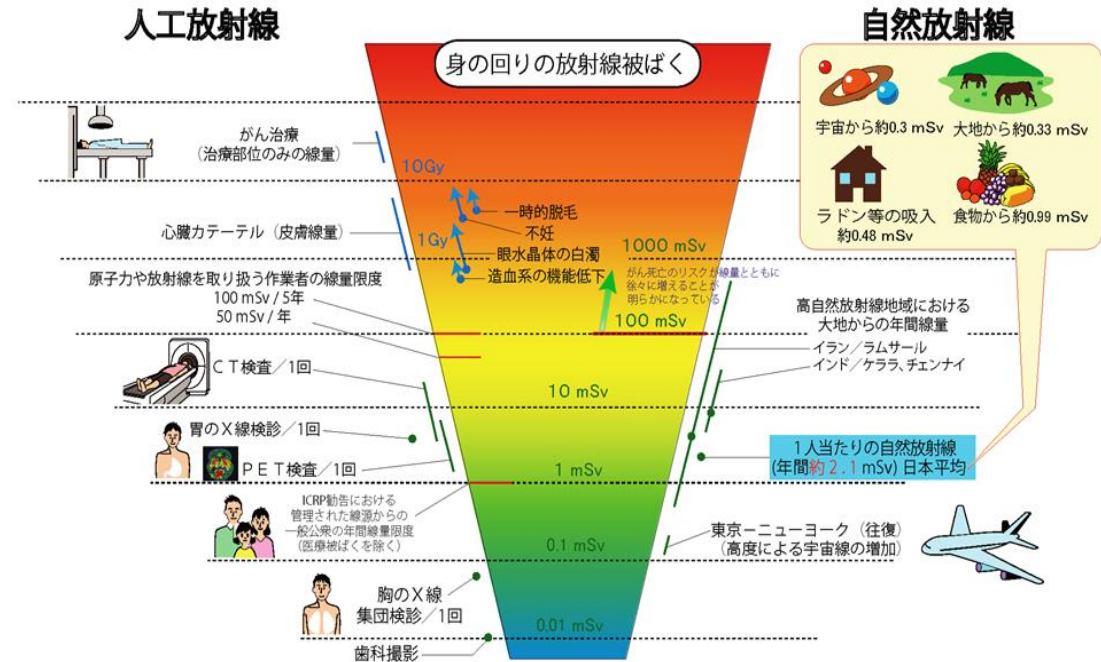
放射線科は技師2名で、外来受診の患者さんと入院患者さんの一般的なレントゲン撮影、X線透視化で行う検査、CT検査業務を行っています。



# 放射線（X線）の被曝について

- 放射線（X線）は光の仲間で紫外線・赤外線のように目で見ることにはできません。また、体に当たっても何も感じません。
- 大量に放射線を浴びると細胞のDNAにダメージを与え、細胞がガン化したり死滅させることがあります。
- 放射線科での検査は少ない量の放射線なので人体にはほとんど影響はありません。
- 胎児への影響を極力なくするため、妊娠中または妊娠の可能性のある方は事前にお知らせください。

## 身の回りの放射線 被ばく線量の比較（早見図）



出典：  
・国連科学委員会 (UNSCEAR) 2008年報告書  
・国際放射線防護委員会 (ICRP) 2007年勧告  
・日本放射線技術学会医療被ばくガイドライン  
・新版 生活環境放射線 (国民線量の算定) 等により、放射線医学総合研究所が作成 (2013年5月)

mSv : ミリシーベルト

## — 透視下嚥下造影（VF） —

- 脳血管障害性（脳出血・脳梗塞など）の後遺症として喉頭麻痺が起き、嚥下（飲み込むこと）が難しくなることがあります。また加齢により飲み込む力が弱くなり、誤嚥（食べ物などが気管や肺に入り込むこと）し肺炎を起こしてしまいます。
- 放射線科での嚥下造影検査（VF）は、食べ物にバリウムをませX線透視装置で食べ物の喉の通り具合を見ます。
- 当院では嚥下のリハビリにも力を入れており、栄養士により食べものを小さく刻んだりとろみを付けるなどの工夫し医師・言語療法士・看護師らにより嚥下の練習をしています。
- X線透視の画像と普通のビデオカメラで同時に撮影することで、飲み込むときの患者さんの表情や状態を後から確認することができます。



# 放射線科からのお願い

- X線は金属を透過することができません。またプラスチックやガラス、衣服のプリントなどが映り込んでしまい、見たい部分が見えなくなってしまうことがあるので撮影時にヘアピン、入れ歯、指輪、ボタン、ベルト、ファスナー、湿布等、外してもらうことがあります。
- 検査室内は放射線が出ていることがあるので、指示があるまで検査室には入らないでください。ご用の場合は、放射線受付で呼び出しベルを押してください。
- 放射線技師2名なので対応に時間がかかる場合があります。
- 放射線科は夜間および土日祝は業務していません。